

I タイワンハブ

【国内における確認状況】

- ・東京都内で見つかったことはない。
- ・沖縄本島では定着が確認されている。

【生態：生息地など】

- ・低地から山地、森林まで幅広い環境に生息。住宅地の中でもわずかな緑地や水場があれば生息できる。
- ・夜行性で、気温が 20℃以下になると活動率が下がる。



【形態：大きさや特徴】

- ・全長 80cm 程度、最大で 130cm 程度。
- ・頭は三角形（クサリヘビ科の特徴）。
- ・頭部背面は小さなウロコでおおわれる（クサリヘビ科の特徴）。
- ・ピット器官は目と鼻の間にある。
- ・灰褐色の地色に楕円形の模様が背中と体の横側に並ぶ。
- ・胴体中央の鱗の列数はおよそ 27 列。

【原産地】

- ・原産地は中国大陸南部、海南島、台湾、ベトナム。

健康被害の具体例

- ・人への^{こうしょう}咬傷。
- ・毒の強さはハブと比較しておよそ 1.1 倍とハブよりも強いが、体が小さく毒の総量が小さいため、咬傷による被害はハブよりも小さい場合が多い。死亡例は無い。
- ・ほとんどが民家の庭先や畑の農作業中で発生している。

被害を受けた場合の対処法

- ・医療機関を受診

特徴・間違えやすい類似種との識別点

- ・本州ではマムシ、アオダイショウの幼蛇が似る。
- ・マムシは同じクサリヘビ科のため頭部形状が似ているが、ウロコ状の模様が異なり、マムシのほうが小さい。
- ・体色は、マムシのほうが全体的に赤みが強い。

【間違えやすい類似種との識別点（1）】



台湾ハブ（左）と類似種：マムシ（右）

台湾ハブとマムシは、模様が異なり、マムシの方が赤色味が強い。

【間違えやすい類似種との識別点（2）】



台湾ハブの頭部（左：三角形、細かいウロコ状）とシマヘビ幼蛇の頭部（右：楕円、大きなウロコ状）

駆除方法

- ・マウスをベイト（餌）とするハブ捕獲器を使用する。
- ・壁沿いに移動する個体を捕獲する誘導三角トラップを設置する。
- ・ハブはさみ棒による直接捕獲する。
- ・ハブスプレーを散布する。

 [危険な外来生物 Web サイトへ](#)

この資料についてのお問い合わせは、下記までご連絡ください。
東京都環境局 自然環境部計画課 / TEL 03-5388-3548 FAX 03-5388-1379

[3]

このページの内容の一部は、Flicker 等が提供しているコンテンツを利用しており、クリエイティブ・コモンズの表示ライセンスに記載の条件に従って使用しています。

本サイト上の文書や画像等に関する諸権利は東京都に帰属します。本サイト上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。

Copyright©2016 Bureau of Environment.TMG. All Rights Reserved.